



2024年度
東京慈恵会医科大学医学部看護学科
The Jikei University School of Nursing

SOGIの多様性尊重に向けた 学生・教職員へのアンケート報告書

著者名

濱田真由美¹
坂木孝輔¹
海老原樹恵¹
大森智美¹
渡邊歩^{2,3}
金久保祐介^{4,5}

所属

1. 東京慈恵会医科大学医学部看護学科
2. 筑波大学人間系
3. 特定非営利活動 法人共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク
4. 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 臨床疫学研究部
5. 一般社団法人にじいろドクターズ



目次

はじめに.....	1
A.調査目的.....	1
B.調査方法.....	1
C.結果・考察.....	2
1. 属性.....	2
2. ジェンダーやセクシュアリティに関する困難.....	3
3. ジェンダー・セクシュアリティ関連用語に関する知識	6
4. 看護学科においてジェンダー・セクシュアリティに関する困難をなくす環境をつくることへの認識.....	6
5. 看護学科としての対応可能性.....	6
6. 大学/看護学科の SOGI 多様性尊重に関する感想や意見.....	7
まとめ.....	8
文献	9

付録	10
----------	----

付録 A 問 2. 大学/看護学科(実習先含む)でジェンダーやセクシュアリティに関する困難(嫌な体験など)な場面を見聞きしたことが「よくある」「時々ある」と回答した方は、その時の状況について教えてください(自由記述)	10
--	----

付録 B 問 3. 大学/看護学科にどのような配慮・工夫・対応があるとジェンダー・セクシュアリティに関する困難を少なくすることができると思いますか？(自由記述).....	11
---	----

付録 C 問 7. ジェンダー・セクシュアリティ関連用語の説明について「正しい」「誤っている」「わからない」のいずれかを選択してください.....	13
---	----

付録 D 問 8. 看護学科においてジェンダーやセクシュアリティに関する困難をなくす環境を積極的につくるべきだと思いますか？(複数回答)	14
--	----

付録 E 問 9. 看護学科としての対応について、あなたの考えを教えてください.....	15
--	----

付録 F 問 10. 上記の問題で「困難だ/不可能だ」「不要だ/個別対応でよい」「わからない」とした項目について、その理由を教えてください(自由記述).....	19
--	----

付録 G 問 11. 大学/看護学科の SOGI 多様性尊重に関する感想やご意見がありましたら、お聞かせください(自由記述)	20
--	----

付録 H アンケート/知識問題の解説.....	21
-------------------------	----

はじめに

本調査は、「SOGI の多様性尊重に向けた学生・教職員へのアンケート調査」として、看護学科学生（卒業生含む）および教職員を対象として2024年4月～5月に実施した内容です。調査メンバーは、2023年12月に医学科 FD に参加した看護学科教員および SOGI や大学での取り組みに関する専門知識をもつ医学科 FD の講師、アドバイザーから構成されました。

SOGI（ソジ）とは、Sexual Orientation と Gender Identity の頭文字で「性的指向（恋愛・性愛の対象となる性別）」と「性自認（自分自身の性をどのように認識しているか）」を指す言葉です。いずれも、誰もがもつ性のあり方を形づくる構成要素であり、日本においては性的指向や性自認に関係するハラスメント、すなわち「SOGI ハラ」として社会に浸透しつつあります。2018年、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）は『大学等における性的指向・性自認の多様な在り方の理解増進に向けて』を公開し、SOGI の多様な在り方に関する理解増進、差別や偏見をなくす取り組みを大学に求めています。

本調査結果を通じて、看護学科におけるダイバーシティ推進の必要性が認識され、取り組みにつながることを期待します。さいごに、貴重なご意見をお寄せくださった回答者の皆様へ心よりお礼申し上げます。

A.調査目的

看護学科における SOGI（性的指向・性自認）の多様性尊重に関する指針策定を目指し、学生（卒業生含む）および教職員を対象とした無記名自己式 web アンケートにて、現状と対応可能性を調査することを目的としました。

B.調査方法

1. 方法

Google フォームを用いた無記名自己式 web アンケート調査

2. 期間

2024 年 4～5 月の約1か月

3. 対象

看護学科 1～4 年生 244 名、キャリアサポートステーションに登録している卒業生 262 名および教職員 41 名の計 547 名

4. 調査内容

アンケート項目（付録 H）は、大学における LGBTQ 学生対応とガイドライン作成状況について調査した渡邊ら（2024）の結果や日本学生支援機構（2018）、風間ら（2022）、早稲田大学 GS センター（2023）、早稲田大学ダ

イバーシティ推進室(2019), 龍谷大学人権問題研究委員会(2017), 日経メディカの調査(2022), Hiramori et al.(2020/2021)の資料を参考に作成した。

5. リクルート方法

学年メーリングリストやキャリアサポートステーションのメールまたは学内に貼付したポスターに提示したリンクから「同意取得のための文書」を読み, web アンケート内の「☐ 本研究に参加することに同意する」にチェックし, かつ web アンケートに回答し送信したことをもって本研究への参加を承諾したとみなした。

6. 分析方法

すべてのデータは, 平均, 度数分布, 標準偏差等の記述統計を算出し分析した。自由記載については, 属性ごとに記載内容を分け, KJ 法を参考に分類した。

7. 倫理的配慮

本調査は東京慈恵会医科大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した(35-403(12040))。すべての質問への回答は任意とし, 必須項目は含まなかった。

C.結果・考察

1. 属性

回答者は61名(回答率11.2%)であり, 学生(卒業生含む, 以下「学生」)37名(60.7%), 教職員23(37.7%), 無回答1名(1.6%)であった(図1)。

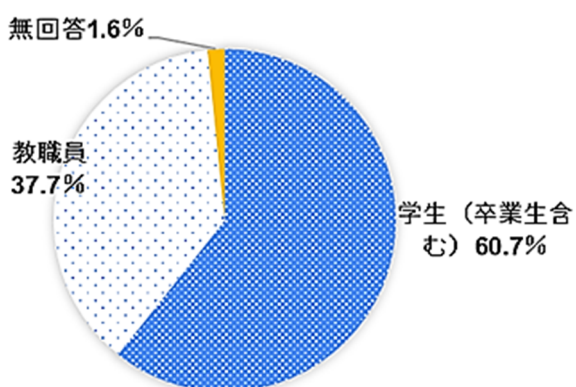


図1 回答者の属性

出生時に割り当てられた性は、女性54名(88.5%), 男性6名(9.8%)であり、性自認も同等数であったことから、回答者全員がシスジェンダー女性またはシスジェンダー男性であった。性的指向は、異性愛 82.0%, 同性愛 3.3%, バイセクシュアル 1.6%, アロマンティック 3.3%, クエスチョニング 8.2%, 無回答 1.6%であった(表1)。

表1. 回答者の概要

	全回答者		学生		教職員		無回答	
	n	%	n	%	n	%	n	%
属性	61	11.2	37	60.7	23	37.7	1	1.6
出生時に割り当てられた性別								
女性	54	88.5	33	89.2	21	91.3	0	0
男性	6	9.8	4	10.8	2	8.7	0	0
無回答	1	1.6	0	0	0	0	1	100
性自認								
女性	54	88.5	33	89.2	21	91.3	0	0
男性	6	9.8	4	10.8	2	8.7	0	0
無回答	1	1.6	0	0	0	0	1	100
性的指向								
ヘテロセクシュア	50	82						
ホモセクシュアル	2	3.3						
バイセクシュアル	1	1.6						
アロマンティック	2	3.3						
わからない	5	8.2						
無回答	1	1.6						
LGBTQ+ people ^a	10	16.4						

Note. N = 547 (n = 61 for each condition).

^a “ホモセクシュアル,” “バイセクシュアル,” “アロマンティック,” “わからない” と回答した人数から算出

2. ジェンダーやセクシュアリティに関する困難

1) ジェンダーやセクシュアリティに関する困難(嫌な体験など)な場面を見聞きした体験

大学や看護学科(実習施設含む)において、ジェンダーやセクシュアリティに関する困難(嫌な体験など)な場面を見聞きした体験について、全体で「よくある」と回答した者はいなかったが、「時々ある」12名(19.7%), 「ほとんどない」29名(47.5%), 「まったくない」20名(32.8%)であった。「時々ある」と「ほとんどない」を合わせると、半数以上がジェンダー・セクシュアリティに関する困難を見聞きしており、教職員の方が見聞きしている割合が高かった(図2)。

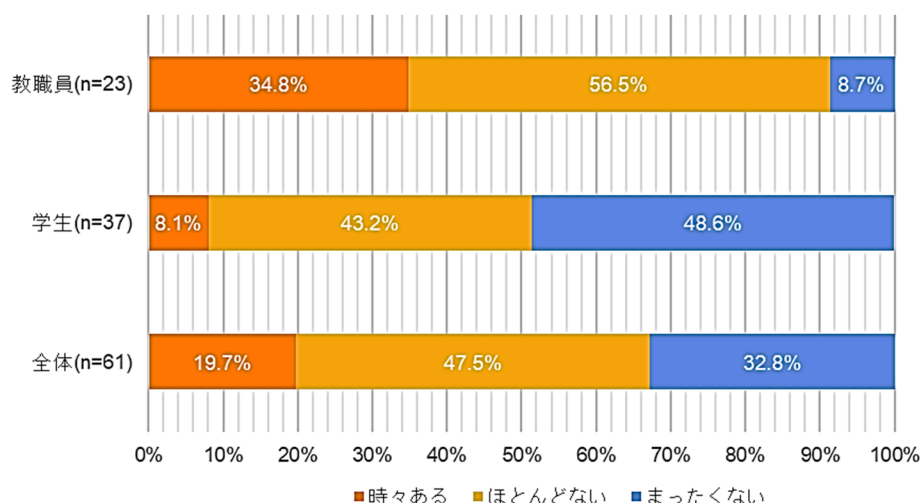


図2 ジェンダーやセクシュアリティに関する困難(嫌な体験など)な場面を見聞きした体験

point 看護学科(実習含む)におけるジェンダー・セクシュアリティに関する困難を体験する割合は高い

実習施設も含め本学科におけるジェンダー・セクシュアリティに関する困難を体験する割合は、極めて高いと言える。ダイバーシティ推進に努め 2008 年より 5 年に 1 度、教職員を対象にしたアンケートを継続的に実施している早稲田大学ダイバーシティ推進室(2024)の報告によると、2018 年度の調査では LGBTQ+に関する差別的な言動を学内で体験・見聞きしたことがあるかという問いに対し「ある」と回答した教職員は 2 割程度いたが、2023 年度の調査結果では 1 割に満たない減少傾向へと転じた。この結果と本調査結果を比較すると、看護学科が女性の多い職業であること、男子学生がマイノリティになりやすい環境であること、ジェンダー・セクシュアリティへの取り組みが表立ってなされていないことが、困難を体験する割合の高さに影響していると考えられる。

point ジェンダー・セクシュアリティに関する困難を知覚する教職員の感受性が高い

属性別でみると、教職員の方が見聞きした頻度・割合が高かった。その理由として、学生は困難な場面に直面したとしても知識がなく、「当然のこと」「これが当たり前」のこととして受け入れてしまい疑問に思わない側面が影響していると推察された。また、「時々ある」と回答した 12 名は、性自認について無回答だった 1 名を除き全員シスジェンダー女性であった。女性の方が困難な体験を見聞きしたことが「ある」と回答する割合が高いのは、早稲田大学(2019)と同様の結果である。シスジェンダー女性に回答が偏った理由として、日本社会のなかでシスジェンダー女性は不平等に曝されやすい存在であり、ジェンダー・セクシュアリティの困難に対し感受性が高く察知しやすいことが影響していると考えられた。

見聞きした状況について自由記載による回答(付録 A)を求めたところ、教職員からの回答が多く、「女性がマジョリティである環境による男子学生の困難」「演習時の身体的接触や露出への抵抗感」「ユニフォームの強要」といった学内・実習環境の困難が挙がった。本学科は男子学生数が 1 学年に 0~1 名であることが常態化しており、最大でも 4 名に留まっている。男子学生がマイノリティとなりやすい環境にあり、“女性ばかりの演習に居づらい、実習で男子学生だからという理由で断られる”、“男性教員、男性学生のロッカー室が女性に比較して環境が悪いなど”という意見が挙がった。特に基礎看護学では清拭や体位交換、洗髪、胸部や腹部の聴診などの技術演習があり、初めての看護技術を学ぶ機会であるうえに、異性や他者との身体的接触という学生にとってはハードルが高い状況が生じやすいと推察される。近年、教育分野では男女混合名簿や呼び方を「さん」に統一するといったジェンダーレスが広がっており、ジェンダーギャップを埋める取り組みの 1 つとして重要である。しかし、身体的接触といったセクシュアリティに関係する演習において、一律に男女混合のグループにしたり、グループ形成を学生に一任したりする方法は、本学科のなかでマイノリティになりやすい男子学生や身体的接触等に拒否感を抱く学生にとって過度な負担を強いる可能性がある。グループ形成前にはすべての学生から教員側に求める配慮を尋ね確認する必要があると考える。また、各領域で統一した対応がとれるよう、基本的な配慮事項については予め看護学科としての方針を打ち出す必要があるだろう。

さらに学生からは、“海外からの留学生がトイレで着替えていた”という回答があった。SOGIだけでなく、宗教や障がい等により他者に肌をさらしたくない学生もいることから、留学生含め更衣室の改善を図る必要性が浮き彫りになっ

た。また、「ジェンダー規範に基づく不快な言動」を学生や教職員が患者や同僚から受けていることが挙げられた。こうした言動に対し、どのように教員や学生が対応していけばよいのかについても考えていく必要があるだろう。

2)ジェンダー・セクシュアリティに関する相談を受けたり、LGBTQ+の方へ対応したりした経験

point LGBTQ+の方に対応した経験がある教職員は約 4 割

本学科に限らず相談を受けた経験について「ある」と回答したのは、学生 8.1%、教職員 21.7%であった。早稲田大学の調査(2024)ではセクシュアリティに関する相談を受けたことがある教職員は、教員 16.9%、職員 12.6%であり、比較すると本学科の教職員が相談を受けた割合の方が高い傾向にあった。また、LGBTQ+の方に対応した経験が「ある」と回答したのは、学生 29.7%、教職員 43.5%であった。このことから、本学科教職員の約 4 割はLGBTQ+の方に対応した経験があり、ジェンダー・セクシュアリティに関する困難や課題について感受性が高い状態にあると考えられた。

3)ジェンダーやセクシュアリティに関する困難を少なくするための大学/看護学科における配慮・工夫・対応

point 看護学科でマイノリティになりやすい男子学生への配慮、相談窓口の周知などが求められている

大学/看護学科に必要な配慮・工夫・対応について自由記載で回答(付録 B)を求めたところ、「ジェンダー・セクシュアリティに対する偏見/偏りの是正」として「性別による制限の撤廃や縮小」「男子学生をマイノリティにしない関わりや仕組み」が挙げられた。特に、看護学科でマイノリティになりやすい男子学生に対する偏見や、性別に基づく制限の緩和が学生および教職員から提案された。また実習では、患者からの偏見に対するサポートの必要性が教職員から挙げられた。

「物理的環境の改善」では「誰でも使用できるトイレの設置」「LGBTQ+に配慮したロッカーの設置」「相談窓口または意見を吸い上げる仕組み」が、「授業・演習・実習環境の改善」として「男女共用のユニフォームまたはユニフォームを選ぶ自由があること」「SOGIに配慮した演習方法」が挙げられた。トイレやロッカーなどの設備、ユニフォームに関する意見は、教職員よりも学生からの意見が多かった。ユニフォームについては、“戴帽式でのパンタロン着用の選択肢”“女子の実習着をワンピース必須ではないようにしたことは、大変良かったと思います”という意見が学生・教職員から挙げており、2024 年度の新入生からユニフォームの選択肢を広げた教学委員会の取り組みが評価されていた。「相談窓口または意見を吸い上げる仕組み」については、学生および教職員から意見があった。学生が気軽に相談できる環境やサポート体制を構築すること、またそれらをアナウンスしアクセスしやすいようにすることが学生から提案された。「SOGIに配慮した演習方法」では、教職員からの意見が多かったが、学生から“対面ばかりでなくシミュレーション機器やスキルトレーニングマシンの導入で訓練に励める学修機会”を求める声も挙げられた。「知識向上による意識改革と風土醸成」は、ほぼ教職員からの意見であり、「教職員の研修会」を求める意見が多かった。「教育による

学生への教授」では“セクシュアリティ論の必須化”が学生から提案された。また、教職員から「学科としての指針策定」、学生から「個々人の立ち居振る舞いの是正」が挙げられた。これらの自由記載は、女性であり性的指向が異性愛からのコメントが多くを占めた。多様な性的指向をもつ学生・教職員からは4件の回答があったが、異性愛者との意見の差は見られなかった。「大学側の配慮というより個々人の立ち居振る舞い」と回答したのは異性愛の学生であった。

3. ジェンダー・セクシュアリティ関連用語に関する知識

point 学生・教職員ともに SOGI または LGBTQ+に関する知識が少ない

知識についての平均正答率(付録 C)は、学生 45.2%、教職員 47.5%と低い状況であった。なかでも、アライや性的指向、X ジェンダー、レズビアンやゲイ、SOGI の意味や定義に関する問題は低い正答率であり、基礎的知識の低さやセクシュアリティの多様性・複雑性への理解の乏しさが浮き彫りになった。

4. 看護学科においてジェンダー・セクシュアリティに関する困難をなくす環境をつくることへの認識

point ジェンダー・セクシュアリティに関する困難解消に積極的な教職員は約 5 割、学生は消極的

看護学科において、ジェンダーやセクシュアリティに関する困難を解消するための環境を積極的に作るべきだと考えるかどうかについては、教職員の最も多い回答は「積極的に関わって実現させたい」(11名, 47.8%)であった。これに対し、学生の回答は、「配慮を要する学生がいた場合に個別対応すればよいと思う」(15名, 40.5%)と「やるべきだと思うが実現は難しそう」(15名, 40.5%)が最も多かった。環境改善に教職員が比較的積極的であるのに対し、学生は比較的消極的であり個別対応でよしとする傾向が見受けられた(付録 D)。個別対応が適切な対応とは言えない理由として、個別対応のみでは問題がある度に LGBTQ+当事者が申し出なければならず、そうした負担を強いてしまうことが挙げられる。また、大学/看護学科の LGBTQ+に対する理解や支援の主体的な姿勢を学内外に示すことは、学生が安心して相談できる環境の提供につながり(渡邉ら, 2024)、ひいては受験生の増加にもつながると考えられ、重要な取り組みである。

5. 看護学科としての対応可能性

他大学における取り組みを参考に、看護学科で対応が可能と思うかについて対象を「在学生」「卒業生・離籍生」「受験生・入学生」に分けて尋ねた(付録 E)。

point 「困難だ/不可能だ」「不要だ/個別対応でよい」理由の背景にある偏見や知識の乏しさ

「直ぐ取り組むべきだ」という回答が6割以上であったのは、受験生に対し「入試において性別情報の取りあつかいは合理的理由があると判断される必要最小限にとどめており、性別情報が可否に影響を及ぼすことは一切ないことを明記する」(75.4%)、在校生に対し「相談があった場合に、LGBTQ+に関する相談窓口につなぐ」(72.1%)、「LGBTQ+に関する複数の相談窓口をパンフレット等で提示する」(70.5%)、「女性学生にワンピース型実習着の購入を強制しない」(67.2%)、「式典において女性学生にワンピース型実習着の着用を強制しない」(65.6%)、「演習での身体接触等についての配慮・対応をする」(65.6%)であった。

一方、「直ぐ取り組むべきだ」が2割未満であった取り組みは「大学/看護学科が発行する証明書に通称名の使用を認める」(19.7%)、「大学/看護学科内で使用する名簿等において、戸籍名でなく通称名を記載する」(18.0%)であった。これらについては、「中長期的に取り組むべきだ」「不要だ/個別対応でよい」がそれぞれ3割弱の回答であった。

また、「困難だ/不可能だ」「不要だ/個別対応でよい」「わからない」と回答した場合に、その理由を自由記載で求めた(付録F)。理由として、“女性の多い看護学科に入学する女性で性自認が男性であるという人がいることが想像できない”“男女別部活動の撤廃など、行き過ぎた配慮は必要ない”“多目的ロッカールームは性犯罪の危険性がある”“通称名を用いる必要性がよくわからない”“男女別の部活を撤廃すると部活らしさがなくなる”といった意見が学生から挙げられ、知識の乏しさとともに偏見が根付いていることが示された。教職員に多かった意見は、“具体的な対応方法が思いつかない”“実習等、患者・家族にも影響が及ぶことについては知識不足で取り組み方がよくわからない”“教職員によって認識が異なり、すり合わせや研修が必要”といった知識不足や認識の不統一が理由として多く上がった。その他には「経費や物理的、制度的に困難」という意見も教職員に見られた。

6. 大学/看護学科の SOGI 多様性尊重に関する感想や意見

大学/看護学科のSOGI多様性尊重に関する感想や意見を自由記載で求め、17名から回答があった(付録G)。回答された内容は、これまでの回答と概ね同様であり、「環境調整の必要性」としてハード面の改善、意見のすり合わせ、段階ごとの取り組み、周知の重要性が挙げられた。また、「対応への障壁」として、具体的な対応の想像しにくさ、対応への懸念事項、「現状への懸念点」として健康診断に伴う個人情報への対処、女性中心の体制が挙げられた。

まとめ

看護学科の学生 37 名および教職員 23 名から、以下の内容が示された。

1. ジェンダー・セクシュアリティに関する困難を見聞きした体験や相談を受けた経験, LGBTQ+に対応した経験は、いずれも教職員の方が高い割合であり、ジェンダー・セクシュアリティに関する困難や課題について感受性が高い状態にあると推察された。
2. 本学科の教職員は、ジェンダー・セクシュアリティに関する困難を見聞きした体験や相談を受けた経験が一般大学よりも高い割合で認められ、女性が多い環境であることやジェンダー・セクシュアリティへの主だった取り組みがなされていないことが影響していると考えられた。
3. 看護学科でマイノリティの存在になりやすい男子学生への授業・演習への配慮、ロッカーなどの学修環境の整備が必要である。
4. セクシュアリティのみならず、宗教や障がい等も含めたダイバーシティに配慮したロッカールームの設置が必要である。
5. 患者-学生間や教員同士においても、伝統的固定観念やジェンダー規範に基づく不快な言動が生じており、そうした状況への対応策を考える必要がある。
6. 教職員、学生ともにセクシュアリティの知識が乏しい状況にあり、特に学生は大学/看護学科として SOGI 多様性に取り組んでいくことに消極的であり、偏見を持っていることが示されたことから、多様な性への理解を深める研修や体験が必要である。
7. すでに取り組んでいる相談窓口、だれでもトイレの設置やユニフォームのジェンダーレス化について、認知していない学生も少なくないため、看護学科としての取り組みを周知する必要がある。
8. SOGI 多様性に取り組んでいくためには、教職員の知識を高め、認識を統一していくことが必要であり、看護学科として基本的な指針を示すことが求められる。

文献

渡邊歩, 樋熊亜衣, 河野禎之 (2024). 大学における LGBTQ 学生対応とガイドライン策定の現状

—各大学のホームページを対象とした探索的調査. 大学改革・学位研究, 25, 15-33.

<https://doi.org/10.32175/kaikakugakui.2024.25001>

早稲田大学ダイバーシティ推進室 (2019). 2018 年度早稲田大学のダイバーシティ推進に関する意識・実態アンケート報告書. https://www.waseda.jp/inst/diversity/assets/uploads/2019/04/diversity_report_2018.pdf

早稲田大学ダイバーシティ推進室 (2024). 2023 年度早稲田大学のダイバーシティ推進に関する意識・実態アンケート報告書.

https://www.waseda.jp/inst/diversity/assets/uploads/2024/03/jp_questionnaire_report_FY2023.pdf

日本学生支援機構 (2018). 大学等における性的指向・性自認の多様な在り方の理解増進に向けて.

https://www.jasso.go.jp/gakusei/publication/_icsFiles/afieldfile/2021/03/08/lgbt_shiryo.pdf

風間孝, 釜野さおり, 北仲千里, 藤原直子, 林夏生 (2022). 大学教員の性的指向・性自認 (SOGI) についての知識と態度に関する全国調査報告. 社会科学研究, 42 (2), 1-31.

早稲田大学 GS センター (2023). LGBTQ+ 学生とアライのためのサポートガイドブック Ver.6.

<https://www.waseda.jp/inst/gscenter/assets/uploads/2023/03/SupportguideV6.pdf>

龍谷大学人権問題研究委員会 (2017). 龍谷大学におけるセクシュアルマイノリティの現状とニーズに関するアンケート報告書. <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-7689.html>

Hiramori, D. & Kamano, S. (2020) / 平森大規, 釜野さおり, 郭水林, 小西優実訳 (2021). 性的指向と性自認のあり方を日本の量的調査でいかにとらえるか—大阪市民調査に向けた準備調査における項目の検討と本調査の結果. <https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/21770104.pdf>

日経メディカル (2022 年 4 月 11 日). 医師 1000 人に聞きました 医師 8609 人に聞いた「LGBT についてどう考える?」. <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/1000research/202204/574571.html>

付録

付録 A 問 2. 大学/看護学科(実習先含む)でジェンダーやセクシュアリティに関する困難(嫌な体験など)な場面を見聞きしたことが「よくある」「時々ある」と回答した方は、その時の状況について教えてください(自由記述)

内容	属性
女性がマジョリティである環境による男子学生の困難	
“男子学生から女性ばかりの演習に居づらい、実習で男子学生だからという理由で断られる”	教職員
“男性教員、男性学生のロッカー室が、女性に比較して環境が悪いなど”	教職員
“男子学生が少数であるため、事務員と学生で実習を行っていた事があった”	教職員
演習時の身体的接触や露出への抵抗感	
“演習で身体を露出する、接触されることへの抵抗について、演習後に申し出られた”	教職員
ユニフォームの強要	
“ユニフォームの着用時のボディーコンシャスな様相から下着の着用で違和感を感じている(生物学的性別が女性であることに違和感や嫌悪感を抱いているのだろう)学生から配慮を求められたとき、指定以外の着用が感染対策上や制服としての指定規則以外認められない場合など”	学生
“「看護への思いを新たにす式」でのスカート強要について疑問の声を聞いた”	教職員
ダイバーシティに配慮していない更衣室による困難	
“海外からの留学生が、トイレで着替えていた”	学生
ジェンダー規範に基づく不愉快な言動	
“若い女性だからという理由で、患者さんから結婚などのプライベートな話をされた”	学生
“患者さんから、女子学生が髪が短く背が高いため「男の子みたいだね」と言われて苦笑する、男子学生が(人数や割合が少ないため)「金の卵だね」「大事にしてあげないと」「男の子が来ると助かるわ」と言われ苦笑するなど。小さなことではあるが、不快や苦痛があると思う”	教職員
“以前在籍していた哲学の教員から、人は結婚してこそ一人前と言われた。A大学の教員でこのような人が人間教育をしているのかと愕然とした”	無回答
“患者から学生へのセクシュアリティに関する行動があり、学生が驚いたり、困難感な躊躇することがあり、その都度対応している”	教職員
“他者を紹介をするとき、性別や年齢をが強調されて紹介している場面があり、違和感があった”	教職員

付録 B

問 3. 大学/看護学科にどのような配慮・工夫・対応があるとジェンダー・セクシュアリティに関する困難を少なくすることができると思いますか？（自由記述）

大学/看護学科における配慮・工夫・対応	属性
ジェンダー・セクシュアリティに対する偏見/偏りの是正	
性別による制限の撤廃や縮小	
“社会的な性別を意識させる表現がないこと、性別による制限を作らないこと”	学生
“ジェンダー、セクシュアリティによって分けられているものが少ないと良い（部屋など）”	教職員
“例えば、受け持ち患者からの偏見めいた発言など、相手が一方的に価値づけてくることに對し、学生自身が不快感を伝えたりすることは難しいと思う（患者もそれをわかっている場合もあると思う）ので、周囲がフォローできるように、実習指導者や病棟、看護学科教員に啓蒙活動や勉強会をすると有効だと思う”	教職員
男子学生をマイノリティにしない関わりや仕組み	
“男子学生を珍しいものとして扱うのではなく普通に接することが重要なかなと思います”	学生
“入試の時点で男子学生が入学しやすい環境を作って、男子学生がマイノリティにならないよう配慮する”	教職員
物理的環境の改善	
誰でも使用できるトイレの設置	
“トイレを共用にする”	学生
“男女問わず使えるトイレ”	学生
“だれでもトイレ”	学生
“多目的トイレを増やす”	学生
LGBTQ+に配慮したロッカーの設置	
“ジェンダーレスロッカー”	学生
“個室で着替えられるスペースを作る”	学生
相談窓口または意見を吸い上げる仕組み	
“気軽に相談できる環境”	学生
“どこの誰先生や、専門の先生に相談できるのかなどを聞き流さないように、年に数回アナウンスすると1人で悩みを抱え込まなくなるのかなと思います”	学生
“頻繁に学生に対して不満や不安がないかアンケートを実施し、意見が通りやすい環境作りに努める”	学生
“おかしいと思ったら発言し、改善する”	教職員
“相談窓口の開設”	教職員
“年度初めに配慮を必要としていることがあれば無記名で発信する機会を設ける”	教職員
授業・演習・実習環境の改善	
男女共用のユニフォームまたはユニフォームを選ぶ自由があること	
“実習着を男女で分けない”	学生
“戴帽式でのパンタロン着用の選択肢、男女のユニフォームの統一または選択”	学生
“男女のユニフォームを統一する”	学生
“ユニフォームのタイプを選択可能にする”	教職員
“ユニフォームの自由化”	学生
“女子の実習着をワンピース必須ではないようにしたことは、大変よかったと思います”	教職員

付録 B つづき

大学/看護学科における配慮・工夫・対応	属性
SOGIに配慮した演習方法	
“対面演習ばかりではなくシミュレーション機器やスキルトレーニングマシンの導入で訓練に励める学習機会”	学生
“性別にあまり関わらない演習等は、学生に確認したうえで一緒に行う”	教職員
“身体に触れながら学習する場面もある学内技術演習などでは、教員は学生が社会的に定まっている性と性自認が異なることもあることを頭に入れて方法を考えられるようにする必要があります”	教職員
“学生同士の演習を前提にしない授業設計”	教職員
知識向上による意識改革と風土の醸成	
教職員の研修会	
“様々な人の考えを聞く機会をもつこと”	教職員
“大学幹部や人事担当者は繰り返し教育を受ける”	教職員
“大学幹部、人事担当者を対象とした学習会を繰り返し行う”	教職員
“まずは、教職員がSOGIについて理解することが必要だと思います。どれだけ工夫や対応をしても、理解していない方の言動があると水の泡になってしまうと思います”	教職員
“基本的な知識から共有する機会（当事者の方などのお話を聴くなど）があるとよいと考えます”	教職員
“当事者の講演会、FDSD”	教職員
“自身も含めて態度が低いことも要因として考えられるため、当事者のかたのご経験や事例に触れる機会を設ける”	教職員
教育による学生への教授	
“セクシュアリティ論の必須化”	学生
“教育は大事だと思う”	教職員
“授業で教授する”	無回答
学科としての指針策定	
“学科として指針が出れば、統一された対応・工夫・配慮ができると思う”	教職員
個々人の立ち振る舞いの是正	
“大学側の配慮というより、各々個人の立ち振る舞い次第”	学生

付録 C

問 7. ジェンダー・セクシュアリティ関連用語の説明について「正しい」「誤っている」「わからない」のいずれかを選択してください

SOGIまたはLGBTQ+に関する知識の正答者・正答率

質問	回答者(n=61)		学生(n=37)		教職員(n=23)		無回答(n=1)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
LGBTとは、性同一性障害や同性愛を指す用語である（誤り）	27	44.3	15	40.5	12	52.2	0	0
レズビアンとは、自身が出生時に割り当てられた性別が女性で、出生時に割り当てられた性別が女性である相手に惹かれる人のことである（誤り）	11	18.0	10	27.0	1	4.3	0	0
ゲイとは、自身が出生時に割り当てられた性別が男性で、出生時に割り当てられた性別が男性である相手に惹かれる人のことである（誤り）	10	16.4	9	24.3	1	4.3	0	0
バイセクシュアルとは、恋愛や性愛の対象として魅力を感じる性が男性と女性どちらも取り得る人である（正しい）	56	91.8	32	86.5	23	100.0	0	0
性別適合手術を受けない場合、その人はトランスジェンダーとはいわない（誤り）	49	80.3	30	81.1	18	78.3	0	0
シスジェンダーは、出生時に割り当てられた性別と性自認が一致する人を指すが、性的指向は様々である（正しい）	21	34.4	11	29.7	9	39.1	0	0
Xジェンダーとは、自分の性別を「男女の中間、性別がない、男でも女でもある、あるいはその間で揺れている」などと認識していない人の総称である（誤り）	12	19.7	9	24.3	3	13.0	0	0
トランスジェンダーとは、性同一性障害の人たちを指す用語である（誤り）	27	44.3	17	45.9	10	43.5	0	0
カミングアウトとは、自らの性のあり方を自分の意思で他者に伝えることを指す用語である（正しい）	57	93.4	34	91.9	22	95.7	0	0
アウティングとは、本人の意思に反して個人の性的指向や性自認を第三者に暴露する行為のことを指す用語で（正しい）	34	55.7	17	45.9	16	69.6	1	100
性的指向とは、恋愛感情や性的な関心がいずれの性別に向かうかの指向を指す用語である（正しい）	40	65.6	23	62.2	16	69.6	1	100
性的指向は、自分の意思で決めることができる（誤り）	16	26.2	8	21.6	7	30.4	1	100
性自認とは、自分がどの性別であるかの認識を指す用語である（正しい）	51	83.6	30	81.1	20	87.0	1	100
SOGIとは、「性的指向（Sexual Orientation）」と「性自認（Gender Identity）」をさし、性的マイノリティを指す用語である（誤り）	8	13.1	4	10.8	4	17.4	1	100
アライとは、仲間や味方、支援者、同盟を意味し、LGBTQ+の人たちの総称である（誤り）	4	6.6	2	5.4	2	8.7	1	100
正答率（%）	46.2		45.2		47.5		40	

付録 D

問 8. 看護学科においてジェンダーやセクシュアリティに関する困難をなくす環境を積極的につくるべきだと思いますか？（複数回答）

選択肢	学生(n=37)		教職員 (n=23)	
	n	%	n	%
すでに大学/看護学科は対応している	1	2.7	1	4.3
困っている学生がいないので不要だと思う	1	2.7	0	0
配慮を要する学生がいた場合に個別対応すればよいと思う	15	40.5	3	13.0
伝統的な部分は尊重すべきだと思う （例：ワンピース実習着，看護への思いを新たにする式後の胴上げなど）	7	18.9	0	0.0
必要だと思うが大変そう	14	37.8	3	13.0
必要だと思うが関わりたくない（誰かがやってくればよい）	0	0	1	4.3
やるべきだと思うが方法がわからない	12	32.4	4	17.4
やるべきだと思うが実現は難しそう	15	40.5	4	17.4
積極的に関わって実現させたい	8	21.6	11	47.8
その他	0	0	0	0

付録 E

問 9. 次の項目に関する「看護学科としての対応」について、あなたの考えを教えてください

問9. 「看護学科としての対応」について、「直ぐ取り組むべきだ」と回答された項目（n=61）

項目	n	%
1) 入試において、性別情報の取り扱いが合理的理由があると判断される必要最小限に留めており、性別情報が合否に影響を及ぼすことは一切ないことを明記する	46	75.4
1 1) 相談があった場合に、LGBTQに関する相談窓口につなぐ	44	72.1
9) LGBTQに関する複数の相談窓口をパンフレット等で提示する	43	70.5
1 2) 女子学生にワンピース型実習着の購入を強制しない	41	67.2
1 3) 式典において女子学生にワンピース型実習着の着用を強制しない	40	65.6
1 6) 演習での身体接触等についての配慮・対応をする（シラバスに身体接触等が必要な演習があることを記載し、配慮が必要な場合は申し出るように、記載するなど）	40	65.6
6) 新入生オリエンテーションでLGBTQへの取組みについて説明する（保護者へもパンフレットを配布するなど）	36	59.0
1 0) LGBTQに関する取り組みをHPで公開する	32	52.5
1 5) 実習先での服装、呼称、敬称、更衣室などへの配慮・対応をする	32	52.5
5) 入学試験時の事前相談を受け、必要に応じて対応する（個室更衣室の使用、服装への配慮、性別欄の削除など）	32	52.5
7) 多目的トイレを「誰でもトイレ」としてパンフレット等で案内する	31	50.8
4) 入学試験時に多目的トイレを設置する	31	50.8
8) 健康診断（身体測定や内科健診、レントゲン撮影など）の個別受診	28	45.9
1 4) 更衣室を男女別に加え、性別に関わらず利用できる個室を用意する	23	37.7
3) 大学/看護学科が発行する証明書の性別欄を削除する	21	34.4
5) 大学/看護学科へ提出する書類の性別欄を削除する	21	34.4
1 7) 部活動での配慮・対応をする（男女別部活動の撤廃、大会への参加など）	21	34.4
1) 卒業・離籍後の証明書において、氏名や性別欄を変更する	21	34.4
2) 入学試験に必要な書類から性別欄を削除する	19	31.1
2) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、性別欄を削除する	17	27.9
6) 大学/看護学科へ提出する書類に通称名の使用を認める	15	24.6
3) 入学試験に必要な書類への通称名の使用を認める	14	23.0
4) 大学/看護学科が発行する証明書に通称名の使用を認める	12	19.7
1) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、戸籍名でなく通称名を記載する	11	18.0

付録 E つづき

問9. 「看護学科としての対応」について、「中長期的に取り組むべきだ」と回答された項目（n=61）

項目	n	%
2) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、性別欄を削除する	20	32.8
1) 卒業・離籍後の証明書において、氏名や性別欄を変更する	20	32.8
17) 部活動での配慮・対応をする（男女別部活動の撤廃、大会への参加など）	19	31.1
10) LGBTQに関する取り組みをHPで公開する	18	29.5
1) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、戸籍名でなく通称名を記載する	18	29.5
2) 入学試験に必要な書類から性別欄を削除する	17	27.9
8) 健康診断（身体測定や内科健診、レントゲン撮影など）の個別受診	15	24.6
3) 大学/看護学科が発行する証明書の性別欄を削除する	15	24.6
5) 大学/看護学科へ提出する書類の性別欄を削除する	15	24.6
6) 大学/看護学科へ提出する書類に通称名の使用を認める	15	24.6
4) 大学/看護学科が発行する証明書に通称名の使用を認める	15	24.6
3) 入学試験に必要な書類への通称名の使用を認める	15	24.6
4) 入学試験時に多目的トイレを設置する	15	24.6
14) 更衣室を男女別に加え、性別に関わらず利用できる個室を用意する	14	23.0
5) 入学試験時の事前相談を受け、必要に応じて対応する（個室更衣室の使用、服装への配慮、性別欄の削除など）	14	23.0
6) 新入生オリエンテーションでLGBTQへの取組みについて説明する（保護者へもパンフレットを配布するなど）	14	23.0
15) 実習先での服装、呼称、敬称、更衣室などへの配慮・対応をする	13	21.3
9) LGBTQに関する複数の相談窓口をパンフレット等で提示する	10	16.4
7) 多目的トイレを「誰でもトイレ」としてパンフレット等で案内する	9	14.8
11) 相談があった場合に、LGBTQに関する相談窓口につなぐ	8	13.1
16) 演習での身体接触等についての配慮・対応をする（シラバスに身体接触等が必要な演習があることを記載し、配慮が必要な場合は申し出るように、記載するなど）	8	13.1
13) 式典において女子学生にワンピース型実習着の着用を強制しない	7	11.5
12) 女子学生にワンピース型実習着の購入を強制しない	6	9.8
1) 入試において、性別情報の取り扱いが合理的理由があると判断される必要最小限に留めており、性別情報が合否に影響を及ぼすことは一切ないことを明記する	6	9.8

付録 E つづき

問9. 「看護学科としての対応」について、「困難だ/不可能だ」と回答された項目（n=61）

項目	n	%
4) 大学/看護学科が発行する証明書に通称名の使用を認める	6	9.8
1 4) 更衣室を男女別に加え、性別に関わらず利用できる個室を用意する	6	9.8
1 7) 部活動での配慮・対応をする（男女別部活動の撤廃、大会への参加など）	5	8.2
1) 卒業・離籍後の証明書において、氏名や性別欄を変更する	5	8.2
3) 入学試験に必要な書類への通称名の使用を認める	5	8.2
2) 入学試験に必要な書類から性別欄を削除する	4	6.6
2) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、性別欄を削除する	3	4.9
1) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、戸籍名でなく通称名を記載する	3	4.9
3) 大学/看護学科が発行する証明書の性別欄を削除する	3	4.9
7) 多目的トイレを「誰でもトイレ」としてパンフレット等で案内する	3	4.9
8) 健康診断（身体測定や内科健診、レントゲン撮影など）の個別受診	2	3.3
1 6) 演習での身体接触等についての配慮・対応をする（シラバスに身体接触等が必要な演習があることを記載し、配慮が必要な場合は申し出るように、記載するなど）	2	3.3
5) 大学/看護学科へ提出する書類の性別欄を削除する	1	1.6
6) 大学/看護学科へ提出する書類に通称名の使用を認める	1	1.6
9) LGBTQに関する複数の相談窓口をパンフレット等で提示する	1	1.6
1) 入試において、性別情報の取り扱いが合理的理由があると判断される必要最小限に留めており、性別情報が合否に影響を及ぼすことは一切ないことを明記する	1	1.6
1 0) LGBTQに関する取り組みをHPで公開する	0	0.0
1 5) 実習先での服装、呼称、敬称、更衣室などへの配慮・対応をする	0	0.0
1 1) 相談があった場合に、LGBTQに関する相談窓口につなぐ	0	0.0
1 3) 式典において女子学生にワンピース型実習着の着用を強制しない	0	0.0
1 2) 女子学生にワンピース型実習着の購入を強制しない	0	0.0
4) 入学試験時に多目的トイレを設置する	0	0.0
5) 入学試験時の事前相談を受け、必要に応じて対応する（個室更衣室の使用、服装への配慮、性別欄の削除など）	0	0.0
6) 新入生オリエンテーションでLGBTQへの取り組みについて説明する（保護者へもパンフレットを配布するなど）	0	0.0

付録 E つづき

問9. 「看護学科としての対応」について、「不要だ/個別対応でよい」と回答された項目（n=61）

項目	n	%
6) 大学/看護学科へ提出する書類に通称名の使用を認める	19	31.1
4) 大学/看護学科が発行する証明書に通称名の使用を認める	16	26.2
1) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、戸籍名でなく通称名を記載する	16	26.2
3) 入学試験に必要な書類への通称名の使用を認める	14	23.0
5) 大学/看護学科へ提出する書類の性別欄を削除する	12	19.7
2) 入学試験に必要な書類から性別欄を削除する	12	19.7
2) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、性別欄を削除する	10	16.4
3) 大学/看護学科が発行する証明書の性別欄を削除する	10	16.4
7) 多目的トイレを「誰でもトイレ」としてパンフレット等で案内する	8	13.1
8) 健康診断（身体測定や内科健診、レントゲン撮影など）の個別受診	8	13.1
14) 更衣室を男女別に加え、性別に関わらず利用できる個室を用意する	7	11.5
15) 実習先での服装、呼称、敬称、更衣室などへの配慮・対応をする	7	11.5
1) 卒業・離籍後の証明書において、氏名や性別欄を変更する	7	11.5
13) 式典において女子学生にワンピース型実習着の着用を強制しない	6	9.8
17) 部活動での配慮・対応をする（男女別部活動の撤廃、大会への参加など）	4	6.6
12) 女子学生にワンピース型実習着の購入を強制しない	4	6.6
4) 入学試験時に多目的トイレを設置する	4	6.6
16) 演習での身体接触等についての配慮・対応をする（シラバスに身体接触等が必要な演習があることを記載し、配慮が必要な場合は申し出るように、記載するなど）	3	4.9
10) LGBTQに関する取り組みをHPで公開する	3	4.9
1) 入試において、性別情報の取り扱いが合理的理由があると判断される必要最小限に留めており、性別情報が合否に影響を及ぼすことは一切ないことを明記する	3	4.9
5) 入学試験時の事前相談を受け、必要に応じて対応する（個室更衣室の使用、服装への配慮、性別欄の削除など）	3	4.9
6) 新入生オリエンテーションでLGBTQへの取り組みについて説明する（保護者へもパンフレットを配布するなど）	3	4.9
11) 相談があった場合に、LGBTQに関する相談窓口につなぐ	2	3.3
9) LGBTQに関する複数の相談窓口をパンフレット等で提示する	1	1.6

付録 F

問 10. 上記の問題で「困難だ/不可能だ」「不要だ/個別対応でよい」「わからない」とした項目について、その理由を教えてください(自由記述)

記載内容	属性
相談しやすい環境の必要性	
“配慮を必要とする本人の意思を汲み取れる環境, 例えば学内相談窓口の案内や相談しやすい工夫が必要である”	学生
偏見/無理解	
“女性の多い看護学科に入学する女性で性自認が男性であるということが想像できない通称名を用いる必要性がよくわからない”	学生
“自分の名前(本名)も含めて受け入れてあげたら良いと思う”	学生
“書類に記入する名前や性別は本人の意思に委ねれば良い”	学生
“通称名を用いると何が本名なのか(わからない)”	学生
“性別に関して(記載, 未記載は)どちらでも構わない”	学生
“男女別の部活を撤廃すると部活らしさがなくなる”	学生
“男女別部活動の撤廃など、行き過ぎた配慮は必要ない”	学生
“多目的ロッカールームは性犯罪の危険性があると思う”	学生
通称名を用いることの困難性	
“公的な書類等に関しては戸籍名を除くことは難しそう”	学生
“(性別欄を撤廃できない理由として)証明書に関するものは、身分が認められなければならない、助産師は生物学的性別が女性でないとならない”	学生
知識不足や認識の不統一による対応への困難さ	
“具体的な対応方法が思いつかないから”	教職員
“実習等患者、家族にも影響が及ぶことについては知識不足で、取り組み方がよくわからない。教職員によって認識が異なる場合があり、すり合わせや研修が必要である”	教職員
その他	
“経費、物理的に困難、制度的に困難と考えた”	教職員

*()内は研究者が加筆

付録 G

問 11. 大学/看護学科の SOGI 多様性尊重に関する感想やご意見がありましたら、お聞かせください(自由記述)

内容	属性
環境調整の必要性	
ハード面の改善	
“演習室の構造などハード面の改修も必要と思われる”	教職員
“入学前や入学直後に他の同級生から気づかれずに教員へ相談できる場があるとその後の対応が円滑進むのではと感じた”	学生
“医療を学ぶ姿勢を尊重することが最優先であるため、少しでも苦なく学べる環境を生徒に寄り添って整えることは必要であり大切なことだと思った”	学生
意見のすりあわせ	
“根拠をもって説明すれば上層部の協力は得られやすいと思う”	教職員
“だれもが快適で安心できる環境で勉強ができるように施設やルール、雰囲気を作る必要があると思う”	教職員
“積極的に取り組む必要があると考えます。どのようなことが出来るか(する必要があるか)、話し合いの機会を持つことが出来ると良いと考えます”	教職員
“意見を募って大学側と在校生側の意見の方向性を合わせることは重要であるため、このような取り組みは今後も継続して積極的に行ってほしいです”	学生
段階ごとの取り組み	
“戸籍に関わらないことは、できることからやれたら良いと思います”	学生
“①すぐに対応可能なこと、②中長期的に対応を考えること、③長期的に対応を考えること、と段階を分けて議論を始める必要があると思います”	教職員
周知の重要性	
“受験生も含め、大学にもこのような組織があることを知らない学生が多い可能性が高いため、広報活動等を通して、PRしていくべきだと考える”	学生
対応への障壁	
具体的な対応の想像しにくさ	
“とても難しい問題だと思った。セクシャリティの差に応じて対応が分かれていることで得られる安心感もあるので、いずれにも属さない人がいる前提に対して、どう配慮した環境がよいのか、一遍通りの想像は難しかった。特に「Q」の人は本人もそうだろうが、環境としてどうすればよいのか想像しがたい”	教職員
“看護師保健師国家試験の際に戸籍の提出などがあり、本名での受験になると思います。事務手続き的に間違ったり煩雑になるのではないかと思います、通称名を用いることが可能かわかりませんでした”	学生
対応への懸念事項	
“国家資格に関わる登録や、博士論文などの申請など、戸籍と通称が異なる場合の対応について十分に知らないと、時期尚早で初めても結果本人が傷つくことにならないよう、同時に並行して様々な事をリサーチし改革への働きかけを進めるべき”	学生
“経済的にすぐに改善は難しいこともあると思う”	教職員
現状へ懸念点	
個人情報への配慮	
“健康診断を学内で実施することには大変抵抗があります。学生の健康状態や下着を外して行う内科健診を教員や慈恵医大附属病院の医師が行うことは到底受け入れられません。健診医師と学生、という関係ではなく先輩と後輩かもしれない、また教師と学生かもしれません。そのような中で自身の身体や個人情報を見られることは、大変問題とっています”	教職員
女性中心の体制	
“看護学科の教育環境は、女性が多いことを前提に教育環境が作られていると感じる”	教職員
“男子学生が〇名いる、男子学生を増やしたいという発言がとても気になっています”	教職員

付録 H

アンケート/知識問題の解説

添付1. アンケート

<研究テーマ>
SOGIの多様性尊重に向けた学生・教職員へのアンケート調査：A大学の看護学生および教職員を対象として

<目的>
本研究は、A大学看護学科におけるSOGI（性的指向・性自認）の多様性尊重に関する指針策定を目指し、学生および教職員を対象とした無記名自己式webアンケートにて、現状と対応可能性を調査することを目的とする。

<倫理的配慮>
・このアンケートへの参加は自由であり、参加しない場合も何の不利点もありません。
・アンケートの質問は15項目（52の質問）であり、回答に要する時間は15～30分程度です。
・答えたくない質問には回答しなくてもかまいません。
・参加をご検討いただける場合は、『同意取得のための説明文』（URL）をお読みください。・アンケートへの回答・送信をもって本研究への参加に承諾したことになります。
・アンケートは無記名自己式であり回答者は特定できない設定としているため、回答・送信後は本研究への参加を撤回することはできません。
・参加いただける場合は、こちら（URL）をクリックして入力してください。

☐ 本研究に参加することに同意する

URLをクリックすると表示されるアンケート(すべて任意回答とし必須項目なし)

このアンケートでは、ジェンダーやセクシュアリティに関する質問をします。 *ジェンダー:社会や文化によってつくられた性別のこと。例えば、「男/女らしさ」や「男/女はこうあるべき」といった性役割や性別規範がある。 *セクシュアリティ:セックス(生物学的性)、性自認、性役割、性的指向、生殖、親密さだけでなく、それに関する信念や態度、価値観等、生涯を通じて人間であることの中心的な側面をなす、性に関するあらゆる総体のことを指す(WAS, 2014/2014)				
	設問番号	設問項目	回答番号 回答項目	
SOGIハラ	1	大学/看護学科(実習先含む)でジェンダーやセクシュアリティに関する困難(嫌な体験など)な場面を見聞きしたことはありますか？	1 よくある 2 時々ある 3 ほとんどない 4 まったくない	
	2	「よくある」「時々ある」と回答した方は、その時の状況について教えてください	1 自由記述	
	3	大学/看護学科にどのような配慮・工夫・対応があるとジェンダーやセクシュアリティに関する困難を少なくすることができると思いますか？	1 自由記述	
リテラシー	4	「同じ性別の人が好き」や「自分の性別に違和感がある」「性別を変えたい」「性別を変えた」人があることを知っていますか？	1 知っている 2 知らない	
	5	本学科に限らず、これまでに学生または教職員からジェンダー・セクシュアリティに関する相談を受けたことがありますか	1 はい 2 いいえ	
	6	本学科に限らず、これまでにセクシュアルマイノリティの方への対応をする/したことがありますか	1 はい 2 いいえ	
	7	ジェンダー・セクシュアリティ関連用語の説明について「正しい」「誤っている」「わからない」のいずれかを選択してください。 1) LGBTとは、性同一性障害や同性愛を指す用語である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない	
			2) レズビアンとは、自身が出生時に割り当てられた性別が女性で、出生時に割り当てられた性別が女性である相手に惹かれる人のことである	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			3) ゲイとは、自身が出生時に割り当てられた性別が男性で、出生時に割り当てられた性別が男性である相手に惹かれる人のことである	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			4) バイセクシュアルとは、恋愛や性愛の対象として魅力を感じる性が男性と女性どちらも取り得る人である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			5) 性別適合手術を受けない場合、その人はトランスジェンダーとはいわない	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			6) シスジェンダーとは、出生時に割り当てられた性別と性自認が一致する人を指すが、性的指向は様々である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			7) Xジェンダーとは、自分の性別を「男女の中間、性別がない、男でも女でもある、あるいはその間で揺れている」などと認識していない人の総称である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			8) トランスジェンダーとは、性同一性障害の人たちを指す用語である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			9) カミングアウトとは、自らの性のあり方を自分の意思で他者に伝えることを指す用語である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			10) アウティングとは、本人の意思に反して個人の性的指向や性自認を第三者に暴露する行為のことを指す用語である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			11) 性的指向とは、恋愛感情や性的関心がいずれの性別に向かうかの指向を指す用語である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			12) 性的指向は、自分の意思で決めることができる	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			13) 性自認とは、自分がどの性別であるかの認識を指す用語である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			14) SOGIとは、「性的指向(Sexual Orientation)」と「性自認(Gender Identity)」をさし、性的マイノリティを指す用語である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
			15) アライとは、仲間や味方、支援者、同盟を意味し、LGBTQ+の人たちの総称である	1 正しい 2 誤っている 3 わからない
	8	看護学科において、ジェンダーやセクシュアリティに関する困難をなくす環境を積極的につくるべきだと思いますか？(複数回答可) 例:「誰でもトイレの設置」「戸籍名とは異なる通称名を使うようにする」「男女別以外に使用できるロッカーの設置」など	1 すでに大学/看護学科は対応している 2 困っている学生がいないので不要だと思う 3 配慮を要する学生がいた場合に個別対応すればよいと思う 4 伝統的な部分は尊重すべきだと思う(例:ワンピース実習着、看護への思いを新たにする式後の胴上げなど) 5 必要だと思うが大変そう 6 必要だと思うが関わりたくない(誰かがやってくればよい) 7 やるべきだと思うが方法がわからない 8 やるべきだと思うが実現は難しい 9 積極的に関わって実現させたい 10 その他()	
	9	次の項目に関する、「看護学科としての対応」について、あなたの考えを教えてください。 【在学生に対して】 1) 大学/看護学科内で使用する名簿等において、戸籍名でなく通称名を記載する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()	

2)	大学/看護学科内で使用する名簿等において、性別欄を削除する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
3)	大学/看護学科が発行する証明書の性別欄を削除する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
4)	大学/看護学科が発行する証明書に通称名の使用を認める	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
5)	大学/看護学科へ提出する書類の性別欄を削除する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
6)	大学/看護学科へ提出する書類に通称名の使用を認める	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
7)	多目的トイレを「誰でもトイレ」としてパンフレット等で案内する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
8)	健康診断(身体測定や内科健診、レントゲン撮影など)の個別受診	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
9)	LGBTQに関する複数の相談窓口をパンフレット等で提示する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
10)	LGBTQに関する取り組みをHPで公開する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
11)	相談があった場合に、LGBTQに関する相談窓口につなぐ	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
12)	女子学生にワンピース型実習着の購入を強制しない	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
13)	式典において女子学生にワンピース型実習着の着用を強制しない	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
14)	更衣室を男女別に加え、性別に関わらず利用できる個室を用意する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
15)	実習先での服装、呼称、敬称、更衣室などへの配慮・対応をする	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
16)	演習での身体接触等についての配慮・対応をする(シラバスに身体接触等が必要な演習があることを記載し、配慮が必要な場合は申し出るように、記載するなど)	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
17)	部活動での配慮・対応をする(男女別部活動の撤廃、大会への参加など)	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
【卒業生・離籍生に対して】		
1)	卒業・離籍後の証明書において、氏名や性別欄を変更する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()

	【受験生・入学生に対して】	1) 入試において、性別情報の取り扱いが合理的理由があると判断される必要最小限に留めており、性別情報が合否に影響を及ぼすことは一切ないことを明記する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
		2) 入学試験に必要な書類から性別欄を削除する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
		3) 入学試験に必要な書類への通称名の使用を認める	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
		4) 入学試験時に多目的トイレを設置する	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
		5) 入学試験時の事前相談を受け、必要に応じて対応する(個室更衣室の使用、服装への配慮、性別欄の削除など)	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
		6) 新入生オリエンテーションでLGBTQへの取組みについて説明する(保護者へもパンフレットを配布するなど)	1 直ぐ取り組むべきだ 2 中長期的に取り組むべきだ 3 困難だ/不可能だ 4 不要だ/個別対応でよい 5 わからない 6 その他()
		10 上記の問題で「困難だ/不可能だ」「不要だ/個別対応でよい」「わからない」とした項目について、その理由を教えてください	1 自由記載
		11 大学/看護学科のSOGI多様性尊重に関する感想やご意見がありましたら、お聞かせください。	1 自由記載
	属性	12 出生時に戸籍や出生届に記載されたあなたの性別を教えてください ※出生時とは生まれたときにもっとも近い時点のことを指します	1 女性 2 男性
		13 現在、あなたの認識にもっとも近い性別を教えてください	1 女性 2 男性 3 決めたくない・決めていない 4 わからない 5 その他()
		14 あなたが好きになる相手の性別を教えてください	1 女性 2 男性 3 性別を問わない・両性 4 特定の人を好きにならない 5 わからない 6 その他()
		15 あなたの所属について教えてください。	1 看護学科生(卒業生含む) 2 教職員

アンケートは以上で終了です。送信をクリックして終了してください。

(終了後のメッセージ)ご協力いただき誠にありがとうございました。用語に関する設問の正誤表はこちらURLからご覧いただけます。

質問	解答	解説
7 ジェンダー・セクシュアリティ関連用語の説明について「正しい」「誤っている」「わからない」のいずれかを選択してください。		
1) LGBTとは、性同一性障害や同性愛を指す用語である	誤っている	LGBTという用語は、レズビアン (Lesbian)、ゲイ (Gay)、バイセクシュアル (Bisexual)、トランスジェンダー (Transgender) の頭文字を取ったもので、性的指向 (L, G, B) と性自認 (T) の両方を包括する用語です。「LGBTQ+」「LGBTQIA」など性別や性的指向を模索中・決めたくない人 (「クエスチョニング」) や性的マイノリティ当事者が自身のセクシュアリティを肯定的に表現するために用いる総称 (「ワイア」) を含む表現も使用されています。
2) レズビアンとは、自身が出生時に割り当てられた性別が女性で、出生時に割り当てられた性別が女性である相手と惹かれる人のことである	誤っている	レズビアン (lesbian) とは、女性 (または女性であること) を感じる (または女性であること) を感じる (または女性であること) につながりを感じ、自認を持つ人に惹かれる人、つまり、性自認が女性で性的指向が女性の人になります (吉田総編集, 2022)。「レズ」は侮蔑的表現ですから、使用しないよう注意してください。
3) ゲイとは、自身が出生時に割り当てられた性別が男性で、出生時に割り当てられた性別が男性である相手と惹かれる人のことである	誤っている	男性 (または男性であること) を感じる (または男性であること) につながりを感じ、自認を持つ人、男性 (または男性であること) につながりを感じ、自認を持つ人に惹かれる人、つまり、性自認が男性で、性的指向が男性の人です (吉田総編集, 2022)。「ホモ」は侮蔑的表現ですから、使用しないよう注意してください。
4) バイセクシュアルとは、恋愛や性愛の対象として魅力を感じる性が男性と女性どちらも取り得る人である	正しい	性的指向 (恋愛または性愛) が男性と女性どちらも取り得る人のことを指す用語です (吉田総編集, 2022)。
5) 性別適合手術を受けない場合、その人はトランスジェンダーとはいわない。	誤っている	トランスジェンダーとは、個人が出生時に割り当てられた性別とは異なる性自認を持つ人を指します。これは、性別適合手術を受けるかどうかとは無関係です。
6) シズジェンダーは、出生時に割り当てられた性別と性自認が一致する人を指すが、性的指向は様々である	正しい	「シズジェンダー」とは、生まれた時に割り当てられた性別が、自分の性自認と一致している人々を指す用語です。性自認が生まれた時の性別と一致することは、多くの人にとっては当たり前のことかもしれませんが、全ての人が当てはまるわけではなく、性の多様性を理解する上で重要です。また、性自認と性的指向は別の概念です。例えば、シズジェンダー男性は、出生時に割り当てられた性別が「男性」で性自認が「男性」であり、性的指向が「男性」に向く人は「ゲイ (同性愛)」、「女性」に向く人は「異性愛」となります。
7) Xジェンダーとは、自分の性別を「男女の中間、性別がない、男でも女でもある、あるいはその間で揺れている」などと認識している人、あるいはその間で揺れている人	誤っている	日本では生まれた呼称。自分の性別を「男女の中間、性別がない、男でも女でもある、あるいはその間で揺れている」などと認識している人の総称です。海外では主に「nonbinary (ノンバイナリー)」と表現されます (吉田総編集, 2022)。
8) トランスジェンダーとは、性同一性障害の人たちを指す用語である。	誤っている	性同一性障害 (性別違和※) は、出生時に割り当てられた性別への違和が強い場合やホルモン療法や性別適合手術などの医療的なケアが必要とされる場合の診断名であり、トランスジェンダーのなかには自分の性別に違和感をもつものの、特に医療的な治療を必要としない人もいます (吉田総編集, 2022)。※2019年WHOは「国際疾病分類」改訂版 (ICD-11) で「性同一性障害」を「精神障害」の分類から除外し、「性と健康に関連する状態」という分類の「性別不適合 (gender incongruence)」へ変更しました。これにより出生時に割り当てられた性別への違和が「病氣」や「障害」ではないと宣言されることになりました (PRIDE JAPAN, 2019)。
9) カミングアウトとは、自らの性のあり方を自分の意思で他者に伝えることを指す用語である	正しい	自らの性のあり方を自分の意思で他者に伝えること。「coming out of the closet」、すなわち「自分が身を隠していたクローゼット (押入れ) から外に出る」というスラングがLGBTQコミュニティに浸透し、世界中に広まり、定着したものです (PRIDE JAPAN)。

7 ジェンダー・セクシュアリティ関連用語の説明について「正しい」「誤っている」「わからない」のいずれかを選択してください。(つづき)	解答	解説
10)	正しい	アウティングは、本人の意志に反して個人の性的指向や性自認を第三者に暴露する行為（ハラスメント）をさします。善意から「良かれと思って」行う場合もあり注意が必要です。アウティングは重大な人権侵害に当たると認識しましょう。2019年、『労働施策総合推進法（改正パワハラ法）』や関連法案が成立し、職場でのパワハラハラスメント（パワハラ）防止が義務付けられるようになりました。厚労省は「事業主が職場における優越的な関係を背景とした言動に起因する問題に関して雇用管理上講ずべき措置等についての指針」を策定し、SOGIは個人情報やプライバシーであるとして明記され、SOGIハラと並んでアウティングもパワハラであると見なされることになりました。これにより、すべての企業等や自治体等がアウティング防止施策の実施を義務付けられることとなりました。これは「措置義務」であり、もし対策を怠った場合、都道府県労働局による助言・指導・勧告等が行われることとなります。（PRIDE JAPAN,）2023年10月1日時点で少なくとも12都道府県26自治体が条例で「アウティング禁止」を明記し、国に先んじて人権擁護に取組む自治体が増加しています（静岡新聞, 2023）。
11) 性的指向とは、恋愛感情や性的な関心がいずれの性別に向かうかの指向を指す用語である	正しい	「性的指向 (sexual orientation)」とは、恋愛感情や性的な関心がいずれの性別に向かうかの指向を指す用語です (LGBT法連合会)。
12) 性的指向は、自分の意思で決めることができる	誤っている	非常に誤りやすい設問です。回答者の中には「性的指向は他人に左右されるものではないから、自分の意志で決められる。すなわち正しい」と考えた方もいらっしゃるかと思います。他人に左右されるものではないというのはその通りですが、性的指向、すなわちどのような性別の人に魅かれるかは自分の意志で決められるものではありません。これまでの人生で異性に魅かれた方は、「自分の恋愛対象は異性にする」と意思によって決めて、異性の中から好きになる人を選んだのではなく、自然に魅かれたのが異性であったのではないのでしょうか。同性愛の方も、同性を好きになろうと自分の意思で決めたものではありません。
13) 性自認とは、自分がどの性別であるかの認識を指す用語である	正しい	「性自認 (gender identity)」とは、自分がどの性別であるかの認識を指す用語です (LGBT法連合会)。
14) SOGIとは、「性的指向 (Sexual Orientation)」と「性自認 (Gender Identity)」をさし、性的マイノリティを指す用語である	誤っている	「SOGI (ソジ)」とは性的指向 (Sexual Orientation) と「性自認 (Gender Identity)」を指す言葉。ここに性表現 (Gender Expression) を加えて「SOGIE (ソジー)」という場合や、生物学的・身体的性 (Sex Characteristics) まで含み「SOGIESC (ソジエススク)」と表現する場合もある。WHO では「SOGIESC」が用いられています。この概念はすべての人がもつ属性であり、人権と結びついています。
15) アライとは、仲間や味方、支援者、同盟を意味し、LGBTQ+ の人たちの総称である	誤っている	「ALLY (アライ)」とは、英語で仲間や味方、支援者、同盟を意味し、LGBTQ+ の人たちやその活動を支持し積極的に支援する仲間のことを指します。

解説の引用・参考文献

LGBT法連合会. 性の3要素. <https://lgbtc.jp/wp/wp-content/uploads/2016/05/05%AE%E5%81%E3%81%E6%80%A7%E6%80%A7%E5%9B%B3%E8%A7%A33.pdf>
 吉田絵理子 (総編集). (2022). 医療者のためのLGBTQ講座. 東京: 南山堂.
 PRIDE JAPAN. アウティングとは. https://www.outjapan.co.jp/pride_japan/column/2023.html
 静岡新聞 (2023/10/23). 「アウティング」禁止条例が増加 富士市など26自治体. <https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1341793.html>
 PRIDE JAPAN. LGBTQ用語解説 カミングアウト. https://www.outjapan.co.jp/pride_japan/glossary/ka/2.html
 PRIDE JAPAN (2019/05/27). WHOが性同一性障害を「精神障害」の分類から除外しました. https://www.outjapan.co.jp/pride_japan/news/2019/5/13.html



SOGIの多様性尊重に向けた 学生・教職員へのアンケート報告書

2024年3月 発行

編集・発行

濱田 真由美/海老原 樹恵/大森 智美/坂木 孝輔

問い合わせ先：m-hamada@jikei.ac.jp

